

狭山市立中央図書館資料収集計画

平成14年10月

はじめに

本図書館は、図書館サービスのあるべき姿を基本目標としてまとめ、そこで次の図書館の理想を掲げました。

- 市民の高度で多様な生涯学習に係るあらゆる情報ニーズに対応できる地域の情報拠点であること。
 - ① 高齢者から幼児にいたるあらゆる利用者を重視したサービスの提供に努めること。
 - ② 本市を核とする地場文化の育成・振興のための情報提供に努めること。
 - ③ 高度情報化社会に対応し、「いつでも、どこでも、だれでも」情報を享受できる「新時代に向けた生涯学習ネットワークづくり」を推進すること。
 - ④ 最小の経費で最大の図書館サービス効果を図ること。

この基本目標においては、図書館の主人公が市民であり、図書館利用の実益が幼児から高齢者までの全ての市民に及ばなくてはならないことを意味しております。

この立場から、平成12年9月26日に、「狭山市立図書館の資料の収集、提供等の方針」を教育委員会の承認により公表し、その中で

- ・「図書館が、市民の基本的人権の一つの「知る権利」を社会的に保障する機関の一つである（第1）」と位置付け、
- ・「資料の収集にあたっては、利用者の資料要求・関心、社会の状況を反映させ、組織的系統的に行うこと（第3）。」
- ・「資料の収集にあたっては、図書館の規模及び地域性に応じた蔵書構成に留意し、市民のニーズ、利用者傾向を第一義的に重要視して行なうべきこと（第4）」と規定しました。

本来、国会図書館のようにどのような資料でも収集できるのであれば収集計画は必要ありませんが、限られた予算、人員、スペースの自治体の公共図書館においては、地域社会の状況等を十分に反映させた資料の収集計画が必要であり、これにより、本市独自の蔵書構成が培われるものと考えているところであります。

また、一方では、情報・資料は、価値観の多様化、情報組織のネットワーク化、高度情報化の時代を迎え、そのあり方や市民の趣向もドックイヤーの速さで変化しております。

例えば、官報や法令集のインターネット化、図書館相互による分担収集であり、図書館の蔵書構成もこれらの変化を踏まえて修正していく必要性があります。

本資料収集計画は、「案」として皆様に公開し、いろいろなご意見、要望を頂戴して調整し本計画にすることを考えておりますが、それで固定化するものではなく、社会情勢や市民ニーズの変化に伴い、必要に応じて修正することも必要と考えております。

この図書館が、本市の地域性をもって豊かな広がりをもてますよう、是非いろいろなご提言、助言をいただければ幸いです。

なお、この収集計画（案）により、資料選定に係る透明性の確保の足がかりができたと考えますが、図書館職員は、市民の税金により、資料構成を行っているという自覚と、図書館の自由に関する宣言を認識し、不断に市民の批判と要望を経営に組み入れ、収集の在り方をたえず吟味し、資料収集の公平性・透明性の確保に努めることを忘れてはならないと考えるところであります。

終わりに、市民の皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

狭山市立中央図書館

目 次

はじめに

目 次

第1 目的

第2 資料収集共通選定基準

- 1 基本的共通基準
- 2 資料の種類別毎の共通留意事項
 - (1) 入門書、概説書、学術書
 - (2) 専門書
 - (3) 実用書
 - (4) 評論、随筆
 - (5) 研究資料
 - (6) 全集、シリーズ
 - (7) 講座、叢書
 - (8) 文庫、新書等
 - (9) 改訂版、増補版
 - (10) 復刻版、影印版
 - (11) 大活字本の充実
 - (12) 録音資料の充実
 - (13) 地図帳
 - (14) 行政資料
 - (15) 外国語資料
- 3 リクエスト等への対応基準

第3 一般資料収集計画

- 1 一般図書類別計画
 - 0類 [総記]
 - 1類 [哲学・宗教]
 - 2類 [歴史・伝記・地理]
 - 3類 [社会科学]
 - 4類 [自然科学]
 - 5類 [技術・工芸]
 - 6類 [産業]

- 7 類 [芸術・スポーツ]
- 8 類 [言語]
- 9 類 [文学]
- 2 外国語資料
- 3 参考資料
- 4 郷土資料
 - (1) 定義
 - (2) 地域的領域
 - (3) 郷土資料の種類
 - ア 狭山資料
 - イ 埼玉資料
 - ウ 地域資料
 - エ 市民文庫

第4 児童資料収集計画

- 1 資料収集基本的留意事項
- 2 児童図書
 - (1) 絵本
 - (2) 文学
 - (3) 昔話、神話、伝記
 - (4) ノンフィクション
 - (5) 漫画
 - (6) 類目毎の基準
 - ・総記～
- 3 ヤングアダルト
- 4 紙芝居
- 5 参考図書
- 6 郷土資料
- 7 児童研究資料

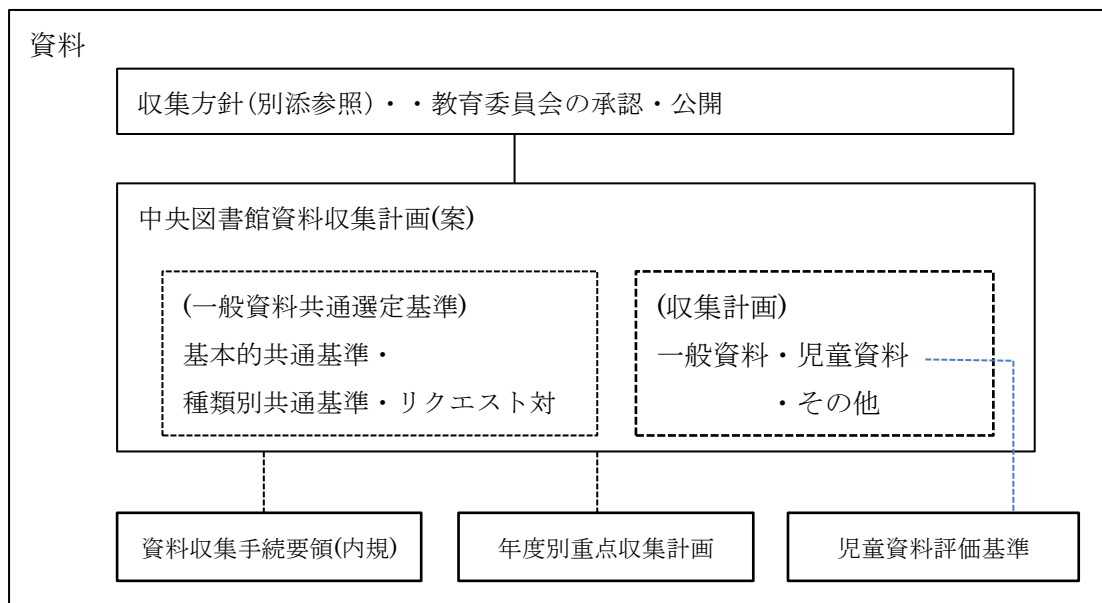
第5 その他資料収集計画

- 1 逐次刊行物資料
- 2 視聴覚資料
- 3 障害者用資料
- 4 パンフレット類

狭山市立中央図書館資料収集計画

第1 目的

この計画は、狭山市立図書館の資料の収集、提供の方針（以下「収集方針」という。）に基づき、中央図書館の資料の選定基準及び長期収集計画を示すものである。



第2 資料収集共通選定基準

1 基本的共通基準

収集する資料を選定するにあたっては基本的に次の事項に留意するものとする。

- (1) 市民の資料要求、利用傾向を把握して、資料構成に活かすこと。(市民の潜在的な要求を含め。)
- (2) 蔵書評価を定期的に行い、最新の情報や新刊情報・改訂版の必要なものについては、資料の更新に常に気を配ること。
- (3) 主題、内容について
 - ア 最新の出版情報の把握と幅広い新刊図書の収集
 - イ 基本図書（基本図書：「各分野、各主題等において、最小限必要と考えられる図書類」をいう。）の収集
 - ウ 学際的、業際的テーマを扱う資料の充実
 - エ 参考文献や検索の有無、充実度等の考慮
 - オ 本市の類縁機関との資料収集に係る役割分担（博物館、消費生活センター、議会図書室、行政資料室等）
 - カ 既存蔵書、類似資料等との調整

キ 本市の政策における重要テーマに係る資料の充実

ク 参考調査資料（行政資料含む。）及び郷土資料の充実（大部でないものについては、R本の他に貸出用としても考慮する。）

（４） 公共図書館としての社会的ストックの必要性

（５） 資料の利用可能性

（６） レファレンス資料としての必要性

（７） 各種受賞著作資料の充実

（８） 複本の必要性

（９） 形態的判断

利用対象者等からみでの図書館における利用に適・不適（丈夫さ・壊れやすさ）

（10） 大部資料についての電子資料又は外部データファイルの利用への変換に係る留意

（11） 価格及び予算

購入する財源的余裕、価格に対する資料価値

（12） 情報媒体の代替性

特に、大部のものや情報の変化の激しいものについて、インターネット等によるデータファイルの利用の優先性を考慮する。

（13） 配架スペースの状況（特に、大部のものの場合）の考慮

（14） 非学術的な資料の判断

非学術的な資料についてもその時代の記録、資料としての歴史的価値に留意する。

CD-ROM等、電子資料の刊行状況（媒体の社会的変動を含め）

（15） 継続的に収集すべき資料については、抜けのないように確実に収集する。

（16） 収集が必要と認められる資料については、高度に専門的な又は日本語以外の言語で記述されたものであっても収集するものとする。

（17） 他の図書館等との資料の棲み分けの判断

高価な資料、雑誌、新聞の縮刷版等については、埼玉県立図書館、県内の類縁機関、近隣市の公立図書館などとの資料の棲み分けを十分に判断して選定するものとする。

（18） 収集の対象としない資料

以下の資料は原則として選定順位を繰り下げ、原則として収集の対象としないものとする。

ア 県等の指定有害図書

イ 既収資料の改題版、新装版

ウ 既収資料を再編集版、ダイジェスト版

エ 学習参考書、大学・高専向けのテキストとして使用することを主たる目的としてい
られると思われる図書

オ 各種研修用のテキストまたは実習書、放送講座用テキスト類

カ 各種試験問題集及び参考図書

- キ 高価でかつ利用対象が極めて限定されると思われる高度な専門書、実務書等
(これらについては、他の図書館等との棲み分けで対応するものとする。この場合において、資料の所在館を確認しておくものとする。)
- ク 単なる貴重本、希少本等又は資料価値に比較して著しく高価な資料
- ケ 公共図書館としての品位に著しく欠けるということが明らかである資料

参考

- ※ 上記「ケ」の資料については、その都度、図書館協議会に図り、具体的妥当性を判断するものとする。

2 資料の種類別毎の共通留意事項

収集する資料を選定するに当たっては、資料の種類別毎に次の事項に留意するものとする。

(1) 入門書、概説書、学術書

参考

- ※ 入門書 本来専門性の高い主題を一般読者のために通俗的に書いたもの
専門知識に至る手ほどきや参考文献を掲げたものが望ましい。
- ※ 概説書 その主題の全般的知識を筋道だてて解説する図書で、その主題の予備知識を持たない読者にも理解できるように書かれているもの。
専門用語に定義が与えられて使用されており、かつ、最新・正確なデータを使用した説得力のある文章の著作を選ぶべきである。
新書版の概説書に説得力があり、分量も手ごろのことが多い。
専門知識に至る手ほどきや参考文献を掲げたものが望ましい。
- ※ 学術書 研究者が新しい理論を追及して研究した結果をまとめた図書
過去の著作には見られない新しい理論や解釈を示しているもの
さまざまな理論、学説、学派の相互関係を見ながら、学問の全体像を蔵書構成に表すように、系統的に収集すべきものである。

以下の点に留意しつつ、体系的に知識が得られるような蔵書構成を目指す。

- ア 入門書・概説書は、最新・正確なデータを使用し、かつ、専門知識に至る手ほどき等
が示された説得力のある文章のものを、幅広く積極的に収集する。
 - イ 極めて専門的な学術書は原則として収集しない。
ただし、社会的に関心の高いと思われる分野については、既存のコレクションとの関係
を考慮して収集を検討する。
 - ウ 専ら教科書として編まれたものは選定対象としないが、その分野の類書が少なく、入
門・概説書として価値があるものは収集を検討する。
- ### (2) 専門書（専門家・実務家向けの概説書・解説書・技術書・ハンドブックなど）

参考

- ※ 専門書 ここでいう専門書は、専門職業等のための実用書をいう。

ア 幅広く収集する。

イ 入門的な資料は厳選する。また、類書を多く所蔵する主題の資料も厳選して収集する。

(3) 実用書

参考

※ 実用書 技術、職業、生活、趣味、スポーツ等において、実際に役立つ図書をいう。

同類書が多く、選択して収集する必要がある。また、現段階の標準的知識に基づき記述されていることが望ましい。

ア その分野の入門的知識が適切に得られるもの、参考調査資料として有用なものを既収の状況を考慮したうえで、厳選して購入する。

(4) 評論・随筆

ア 特定主題の理解・研究に役立つものを優先して購入する。

(5) 研究資料

参考

※ 研究資料 学術論文を作成するための資料で、通常、個々の資料の価値より、多数の資料の群としての価値が重要であることから、すきまなく収集することが重要となる。

通常、公共図書館としては、郷土・地域資料・特定のテーマの特殊コレクションが蔵書となる。

ア 本市の郷土資料に関連するものの収集に努める。

イ 歴史資料、文学資料、数値・統計資料（特に長期統計書）などについては、研究資料として価値が高いと思われるものを収集する。

(6) 全集、シリーズ

参考

※ 全集 本来、ある人や全ての著作をまとめた書物であるが、ある内容についての著作を多く集めた書物や「選集」と呼ばれる現存者の著作集も全集と呼ばれる。

ア 旧版や既収の全集との違いを考慮のうえ収集する。

イ 個人全集については、決定版的なものの収集に努める。

ウ 絶版本については、欠本の生じることのないように参考図書に位置づけるものとする。

(7) 講座、叢書

参考

※ 講座 学科の体系的知識を与えるように編集された出版物で、「講座」という名称を用いることが多い。

※ 叢書（双書） 同一の主題分野等において、互いに関連ある一連の図書で、同一の形式や体裁に従って編集され、継続的に出版されているもの（叢書名をもち、

同一の著者の場合、多数の著者の場合がある。)で、同一の編者・出版社により、同一の装丁で出版される。

一般的には、全書、選書、新書、文庫等の名称のものも、この種類に含まれる。

(8) 文庫、新書等

参考

※ 文庫 出版の形式の一つで、普及を目的として小型（Ｂ６版以下）で携帯して読むのに便利な廉価な本の叢書

※ 新書 解説書教養書、一般啓蒙書等に係る叢書であり、普及を目的として廉価でかつ、小型（Ｂ６版以下）で携行して読むのに便利な出版形式のものをいう。

ア 各分野・各主題の入門・概説書として有用なタイトルを選択して収集する。

イ シリーズとして継続購入するものは厳選する。

ウ 高価本が文庫や新書となっている場合は、これを優先する。

(9) 改訂版、増補版

ア 改定・増補の程度、内容を考慮して購入を検討する。

イ 法律等の重要な改定に伴う改定・増補に注意する。

(10) 復刻版、影印版

ア 原本を所蔵するものは原則として収集しない。

イ 復刻版は研究資料としての資料価値、利用可能性等を考慮して慎重に収集する。

ウ 影印版は、活字版がなく底本の資料的価値が高い場合に選定対象として検討する。

(11) 大活字本の充実

(12) 録音資料の充実

(13) 地図帳

ア レファレンスに有用な地図帳を厳選し購入する。また、定期的な更新に努める。

イ 一枚ものの地図についても留意する。

ウ 歴史資料としての地図についても留意する。

(14) 行政資料

ア 機構図・要覧類、白書・行政報告書、統計、調査報告書、審議会資料等についての国及び埼玉県の刊行物は、参考資料として積極的に収集する。この場合において、貸出しが多く見込まれるものについては、貸出し用としても収集する。

イ 他県、他市の刊行物については、当面、参考資料として特に必要と思われるものを選択して収集する。

ウ 本市の刊行物については、郷土資料として、漏れのないように収集する。

(15) 外国語資料

ア 外国語資料とは、出版地を問わず、外国語で記述された資料とする。

イ 国際化に対応する図書館を目指して、地域社会の外国人に対して、サービスを展開するために、多言語で書かれた資料を収集し、「外国語資料コーナー」として設置する。

ウ 言語の種類

- (ア) 利用者の使用する言語にあわせた形での言語種類を考慮しながら、多くの種類の言語で書かれた資料の収集に努める。
- (イ) 英語資料を中心とした欧米資料のほかに、姉妹都市、友好都市の属する国の言語やその他必要と認める言語の資料の収集に努める。

エ 収集計画

- (ア) 市内に在住する外国人、帰国子女、語学学習者などを利用対象者として、各分野にわたって外国語資料を収集する。
- (イ) 外国人のために広く日本を紹介した外国語資料、日本での生活情報などを幅広く収集する。

3 リクエスト等への対応基準

- (1) リクエスト及び蔵書についての要望・意見は図書館への蔵書構成への利用者の意思表示の反映としてこれを受けとめ、次の事項を総合的に判断して、購入、相互貸借等の対応を検討する。この場合において、県内公共図書館、県立図書館、類縁機関等のバックアップの活用も十分に図るものとする。

ア 予算状況から見て、斟酌できるものか。

イ 収集計画が適合するものか

ウ 図書の価格が高価すぎないものか

エ 利用者の今後のニーズが見込めるものであるか。(社会、経済の動きから見て潜在的な需要を含め)

オ 際立った利用は見込まれないものの、公共図書館として社会的ストックの必要性があるものか。

カ 類本の蔵書状況はどうであるのか。

- (2) 相当高額の資料、特殊・特定分野の資料及びシリーズ等の大部な資料については、県立図書館や近隣の図書館の収集状況等を調査の上、資料の棲み分けを図るなど、特に慎重に選定するものとする。
- (3) 文庫・新書については、購入・収集の対応を検討する。(収集済の単行本がある場合を除く。)
- (4) 本図書館の蔵書にない分野に係る入門書、概説書、学術書、実用書、講座等については、収集を検討する。
- (5) 雑誌については、年間のリクエスト等の状況を年度末の収集雑誌の選定の段階でかんがみるものとし、個々のリクエストに基づく収集は、行わないものとする。
- (6) 参考資料、行政資料及び郷土資料の対応
 - ア 参考資料として役立つと考えられるものについては、購入を検討する。
 - イ 本市の行政資料については、収集する。
 - ウ 埼玉県及び近隣市の行政資料については、購入を検討する。

- エ 本市及び隣接市に係る郷土資料のリクエストについては、購入を検討する。
 - オ 本市及び隣接市に関係する作家の著作物のリクエストについては、購入を検討する。
 - カ 埼玉県に関係する作家の著作物のリクエストについては、購入を検討する。
- (7) 一般資料としてのストーリー漫画については、リクエストに基づく、購入・収集は行わないものとする。(リクエストは、受ける。)
- (8) 児童図書の対応
- ア 内容の評価した上で、購入を検討するものとする。
 - イ ストーリー漫画については、リクエストに対する購入・収集は、行わないものとする。(リクエストは、受ける。)
- (9) 映像資料、CD及び朗読資料については、リクエスト自体を受けないものとする。
(本図書館で収集できない場合、他から借り受けることが不可能なため。なお、障害者に対しては、別途資料要求調査を行うものとする。)

第3 一般資料収集計画

1 一般図書類別計画

0類 総記（図書館、書誌学、百科事典、逐次刊行物、叢書）

- （１）「図書館、書誌学」に関する資料は、本市の図書館職員が知らなければならないことであり、また、図書館以外の機関では、ほとんど収集されていないことに鑑み、積極的に収集する。
- （２）「情報科学」等の特に進展が早いものについては、時代に取り残されることのないように資料の更新には、特に気を配るものとする。

007 情報科学

- ア 基本的な技術書、実用書、解説書を中心に収集する。
- イ 時代の変革の基軸をになう分野であり変動も激しいので最新の情報の提供に努める。
- ウ 代表的なプログラミングの言語の基本書は、全て収集する。
- エ 個別のソフトウェアの操作マニュアルも収集する。
- オ 技術書だけでなく、「高度情報化社会」「情報公害」「IT革命」等、情報技術と産業、行政、社会等とのかかわりについて書かれた学際的なものにも留意する。

010～020 図書館～図書、書誌学

- ア 図書館については、専門性の高い分野まで積極的に収集する。
- イ 書誌類、目録類、その他情報の検索の役に立つものはできるだけ豊富に収集する。通常の出版ルートにのらないものが多いので留意して収集する。
- ウ 先進市の公立図書館の資料、相互利用を図る場合の専門図書館等の資料及び県内公共図書館の発行する各種資料は、特に収集する。
- エ ニューメディアを利用した書誌類の検索方法も必要に応じて導入する。

030～ 百科事典

- ア 「参考資料」とも係わるが、小部の貸出しが多く見込まれるものについては、参考資料として収集するもの、しないものも含めて、貸出用としても様々な分野について幅広く収集する。

059 年鑑

- ア 「参考図書」に掲げる。

060 団体

- ア 類縁機関に係る資料は、積極的に収集する。

070 ジャーナリズム、新聞

- ア マスコミとともに積極的に収集する。
- イ 過去の新聞記事内容を調べるため、必要に応じて、主要紙の縮刷版又はニューメディ

アを利用した検索方法を用意する。

080 叢書、全集

- ・第2の第2項第6号及び第7号に掲げる。

1類 哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教）

- (1) 人間の生き方に関する分野でもあり、先入観を持たずに収集する。
- (2) 各分野の基本書、入門書を中心に体系的に収集するが、必要に応じて主要な叢書類、必要な専門書も収集する。
- (3) 各分野の代表的原典も収集する。
- (4) 話題になっているテーマや著作に留意する。
- (5) 一般向けに書かれた分かりやすい人生論、宗教書などに留意する。

100～ 哲学

ア 代表的な哲学書は、全て収集する。

120～139 東洋思想～西洋思想～その他の哲学

ア 各時代の各分野にわたって主要な思想家の著作、著作集、それぞれの思想家に関する研究、伝記などを体系的に収集する。

イ 日本思想や西洋思想は、現代の思想潮流も反映させる。

140～ 心理学

ア 非行、登校拒否、いじめ、子供虐待、心身症、多重人格等現代の世相を反映し、利用者の求めるものが多いことに留意する。

イ 主要な心理学者の著作、著作集などは体系的に収集する。

147～148 超心理学、心霊研究～相法、易占

ア 相法、易占等は、古典的資料を中心に収集する。

イ 話題になっている資料は、偏見にとらわれて排除しないように留意する。

160～199 宗教

※基本方針にも述べたとおり、各々の資料がどのような主張、思想を持っていようともそれを図書館、又は図書館員が支持することを意味しない。

ア さまざまな宗教があるが、平等に扱うようにするとともに、教理、教典その他宗教に係る批判、批判版は、棚揃えにも偏りのないようにバランスを考慮して特に公平に収集する。

イ 現存する宗教団体や教祖自体に関する批判は、特に慎重に扱うように留意する。

ウ 原典、宗教史、教義、入門書、解説書を中心にし、必要に応じて研究的レベルのものまで収集する。

エ 個々の宗教・宗派の教理、経典に関する資料も収集する。

オ 本市に関係する社寺、宗教儀式等についての資料は、郷土資料として漏れのないように収集する。

1 6 4 神話

- ア 世界各地の神話は、幅広く収集する。
- イ 日本の神話は、人気があるので幅広く豊富に収集する。
- ウ 県内及び本市内の神話については、郷土資料として漏れのないように収集する。

2 類 歴史（歴史、伝記、地理、紀行）

- (1) 利用の多い分野なので、一般向けに書かれた歴史読み物から入門書、解説書、研究書等まで多様なレベルのものを、参考資料との調整を図りつつ幅広く収集する。
- (2) 歴史観による立論の対立があるものは多様な観点に立って収集することに留意する。
- (3) 通史、時代史、地域史などの叢書類は、幅広く収集する。
- (4) 歴史事典、人名事典、人名録、地名辞典などの辞典類、便覧、年表、地図などの小部の参考資料で、貸出しが多く見込まれるものについては、貸出用として積極的に収集する。
- (5) 歴史資料は、参考資料としても係わるので、収集に当たっては参考資料の収集と調整を図りつつ行うものとする。この場合において、小部のもので貸出しが多く見込まれるものについては、貸出用としても収集する。

2 1 0 日本史

- ア 一般、学生、専門家等の利用が多い分野であり、多様なレベル、観点のものを幅広く収集する。
- イ 歴史資料の基本的なものは、収集する。(参考資料へ)
- ウ 日本史上の重要遺跡の調査報告書を収集する。(参考資料へ)

2 1 0. 6、2 1 0. 7 日本史近代、現代

- ア 積極的に収集する。
- イ 特に、歴史観による立論の対立が多いものは、多様な観点のものを幅広く収集する。

2 1 1～2 1 9 地方史

- ア 各県の概史を収集する。(参考資料へ)
- イ 埼玉県と狭山市に関する資料は郷土資料としても使用するので、できる限り収集する。(郷土資料へ)
- ウ 近隣市史及び県内の歴史上重要地域の含まれる市史を収集する。(郷土資料へ)

2 2 0～2 7 9 外国史

- ア 多くの国について積極的に収集する。
- イ 特に出版点数の少ない国や地域、例えばアジア、アフリカ、アラブ、ラテンアメリカに関する資料はできるだけ収集する。
- ウ 少数民族の歴史が分かるような資料も出来る限り収集する。

2 8 0 伝記

- ア 資料的価値が高いものについては、日本人、外国人とも積極的に収集するが、現在の

人物のものについては、慎重に検討する。

イ 人名事典、人名録は、幅広く収集する。(参考資料へ)

290 地理、地誌、紀行

ア ドライブマップ、ロードマップなど地図類は、用途に応じて最新のものを各種収集する。

イ 旅行案内、観光案内などは、国内国外とも豊富に用意し、更新に気を配り、最新のものが常にあるように努める。

ウ CD-ROMなどのニューメディア化した資料も必要に応じて導入する。

エ 姉妹都市、友好都市に関する資料は積極的に収集する。

オ 近隣市、本市の住宅地図は、全て収集する。

3類 社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、民族、軍事）

- (1) 時事性の高く、また、さまざまな学説、主張がある分野であるため、多様な観点に立つ資料を幅広く収集し、常に新鮮なものをそろえるようにする。
- (2) 新しく生まれた社会的諸問題や話題になっている資料は、できるだけ早く収集する。
- (3) 入門書から研究書まで多様なレベルの要求に応じられるよう、幅広く収集する。
- (4) 日常生活や実務に必要な実用書は、新しい資料を豊富に収集する。
- (5) 辞典、ハンドブック、書誌、検索、統計等の参考図書や調査研究に有用な政府刊行物は各分野のものを幅広く収集する。
- (6) 必要な専門書は、積極的に収集する。

302 政治、経済、社会、文化事情

ア 外国を含めて話題になった資料、新しい資料を豊富に収集する。

イ 外国の諸制度、社会文化事情を研究、紹介するものは、幅広く収集する。

304 論文、講演集、社会評論

同上

309 社会思想

ア 主要な社会思想家の著作は、体系的に収集する。

イ それぞれの社会思想において、時代を代表する資料、話題になっている資料は、積極的に収集する。

310 政治学

ア 多様な観点の資料を幅広く収集し、偏りのないようにする。古典的なものも時事性のあるものも収集する。

イ 日本及び外国の議会制度に関する資料にも留意する。

ウ 政党の公刊資料や政党に関する研究書にも留意する。

エ 政治家等の評伝、日記、著作集等の収集にも留意する。

3 1 6 国家と個人・宗教・民族

- ア 多様な観点の資料を幅広く収集する。
- イ 話題性、時事性に留意する。

3 1 7 行政

- ア 行政改革、行政経営の資料は、多様な観点の最新の資料を幅広く積極的に収集する。

3 1 8 地方自治

- ア 地方行政、都市問題、都市政策など地方自治は市民の身近な問題を多く含んでいるとともに、分権の時代、行政経営の時代を迎えて地方自治が大きく変革する時代となっているため、地方自治の諸問題については、多様な観点の資料を幅広く積極的に収集する。

3 2 0 法律

- ア 各分野の基本書、概説書、法令解説等で主要なものを収集する。
- イ 法令集、判例集は体系的に幅広く収集する。
- ウ 必要な専門書は、積極的に収集する。
- エ 市民生活と関わりの深い分野については、法律相談などの実用的な資料も含めて、新鮮な資料を収集する。
- オ 話題性や時事性のある主題に関する資料は、積極的に収集する。
- カ 法律書は、法改正に伴って常に新しいものを提供できるよう、資料の更新に留意する。
- キ 大部となる資料は、ニューメディアを利用した検索方法に代えていくことに留意する。

3 2 3 憲法

- ア 論争の主題については、多様な観点の資料を幅広く収集する。

3 3 0～3 4 9 経済～経営～地方財政

- ア 既収状況を踏まえて、概説書を中心にして専門的な資料を幅広く収集する。
- イ 社会生活に密着し、変化が激しい時代を迎え、関心を集めている分野なので、時事性、話題性、資料の更新に気を配り、常に新鮮な資料をそろえるようにする。
- ウ 経営改革の時代に当たり、最新の経営管理、経営学等の動向に留意する。
- エ 学説が分かれるものは、多様な観点に立つ多様な資料を収集する。
- オ サラリーマン、中小事業主、商店街等のための入門書、実用書、解説書などのビジネス資料の収集に気を配る。

3 3 1 経営学、経済思想

- ア 多様な観点に立つ、多様な資料を収集する。
- イ 新しい経済思想の動向に留意する。

3 3 2 経済史、事情、経済体制

- ア 日本、世界の経済事情を知るため幅広く収集する。
- イ 最新情報を迅速に収集する。
- ウ 日本との関係、親近性に留意する。

3 3 3 経済政策、国際経済

ア 経済援助、経済協力、南北問題を重視する。

イ 日本と世界経済の関連について留意する。

3 3 4 人口、土地、資源

ア 時事性、話題性のある資料に留意する。

イ 基礎的データの資料に留意する。

3 3 5、3 3 6 企業、経営、経営問題

ア 時事性、話題性のある資料に留意する。

イ サラリーマン、中小事業主、自営業者のための入門書、実用書、解説書などの利用の多いものを中心に幅広く収集する。

ウ 事務のIT化、労務管理システム変革、経営の合理化、コーポレートガバナンスなど、今日的な新鮮な資料を幅広く収集する。

3 3 7 通貨、貨幣

ア 時事性、話題性のある資料に留意する。

イ デフレ等の景気変動問題については、新鮮な資料を幅広く収集する。

ウ 物価問題は、市民生活に関連が深いので幅広く収集する。

3 3 8 金融、銀行、信託

ア 時事性、話題性のある資料に留意する。

イ 金融については、生活に直接関わる分野であり、身近な実用書を幅広く収集し、新鮮な資料を集めるようにする。

3 3 9 保険

ア 保険業界の大変動の時代を迎え、時事性、話題性のある資料に留意し、新鮮な資料を幅広く収集する。

3 4 0 財政

ア 時事性のある入門書、概説書を中心に収集する。必要な専門書も収集する。

3 4 5 税金

ア 生活に直接関わる分野であり、身近な実用書を幅広く収集し、新鮮な資料を集めるようにする。

3 5 0 統計

ア 社会のしくみを理解するのに必要な基本的統計類を収集する。

3 6 1 社会学

ア 日本人論、マスメディア論、同和問題、社会調査、世論調査など社会的関心の高いテーマは、幅広く収集する。

イ 時事性、話題性の多い分野であり、多様な視点に立つ多様な資料を幅広く収集する。

3 6 4 社会保障

ア 年金、保険については、変化が激しく、また、生活に直接関わる分野であり、実用書

を幅広く収集し、新鮮な資料を集めるようにする。

3 6 5 生活・消費者問題

ア 時事性、話題性のある資料に留意する

イ 消費生活センターとの資料の棲み分けに留意する。

3 6 6 労働問題

ア 多様な視点に立つ多様な資料を幅広く収集する。

イ 労働時間、外国人労働力、成人の再教育、婦人労働問題など今日的なテーマに関する資料は、幅広く収集する。

ウ 法の改正の多い分野であり、新鮮な資料に留意する。

3 6 7 家族問題、女性問題、児童・青少年問題、老人問題

ア 今日的課題の多い分野であり、多様な観点に立つ多様な資料を幅広く収集する。

イ 時事性、話題性のある資料に留意する。

3 6 8 社会病理

ア 少年非行、覚醒剤等の時事性、話題性のある資料も多いので、幅広く収集する。

3 6 9 社会福祉

ア 高齢化に伴って派生する様々な問題に関する資料を幅広く収集する。

イ 本市の重要なテーマであり、また、これからの社会においてますます重要なテーマとなるので、多様な資料を幅広く収集する。

ウ 老人問題、老人福祉、障害福祉、災害、難民問題などの今日的な問題は、積極的に収集する。

3 7 0～ 教育

ア 社会的関心を集めている分野であり、多様な観点に立つ多様な資料を収集する。最新の資料を迅速に入れるように留意する。

イ 新たな教育課程、今日的テーマに関する資料に留意する。

ウ 中教審答申など、現在の教育政策に関わる基本資料と解説も収集する。

エ 学校案内、受験案内、留学ガイドは、厳選し、情報の鮮度に留意する。

オ 話題性、時事性のある最新の資料に留意する。

3 7 5 教科書問題

ア 市内公立小中学校、高等学校の教科書及び話題となった教科書の収集に努力する。学習指導要領も併せて収集する。

イ 評論・研究書は、多様な観点に立つ多様な資料を幅広く収集する。

3 7 6 幼児、小、中、高校生

ア 児童、青少年問題との関連で積極的に収集する。

イ 時事性、話題性のある資料に留意する。

3 7 8 障害児教育

ア 積極的に収集する。

イ 手話、点字については、実用的な資料を収集する。

379 社会教育

ア 社会教育資料は、生涯学習の観点から幅広く収集する。

379 児童文化、青少年教育

ア 児童、青少年問題やこども図書館の研究用資料との関連に留意しながら、時事性、話題性のある資料を収集する。

380 民俗学

ア 利用者が多いので幅広く収集する。

385 冠婚葬祭、エチケット

ア 実用書で新しい資料を幅広く、積極的に収集する。

382 国防、軍事

ア 多様な視点に立つ多様な資料を幅広く収集する。

4類 自然科学（数学、理学、医学）

(1) 自然科学は、進展が著しく関心の高い分野なので、最新の情報を常に提供できるように留意する。

(2) 入門書、概説書を中心にするが、必要な専門書も収集する。

(3) 細分化された個別分野の高度な専門書は収集しない。大学の一般教養レベルである入門書、概説書、概論、研究書までを広く収集する。

(4) 図鑑などグラフィックな資料は積極的に収集する。

(5) 自然科学の最新の分野について、分かりやすく書かれた本は、積極的に収集する。

(6) 図書のみでなく、ニューメディアを利用した検索方法を用意する。

410～430 数学、物理学、化学

ア 入門書、概説書を中心にする。

440 天文学、宇宙科学

ア 最新の学問傾向に留意して収集する。

450 地球科学、地学、地質学

ア 環境問題、異常気象等として世界的規模で重要な分野であり、社会的にも関心を持っている分野なので、入門書から専門書まで幅広く、積極的に収集する。

イ 学際的資料に留意する。

460 生物科学、一般生物学

ア 入門書、概説書を中心に収集する。

イ 生物工学、遺伝子工学、生態学は、社会的関心を持っている分野なので、幅広く収集する。

ウ 学際的資料に留意する。

470～480 植物学～動物学

ア かなり詳しい知識まで調べる人も多いので、入門書、概説書だけでなく、必要な専門書も収集する。

イ 図鑑類は、利用者が多いので、小部のもので貸し出しが多く見込まれるものは、参考資料の他に貸出用としても幅広く収集する。

490 医学、薬学

ア 利用者の多い分野であり、入門書、概説書を中心に幅広く、積極的に収集する。

イ 利用者の要求する資料は、どんどん高度になってきていることを考慮し、専門書であっても検討して収集する。

ウ 実用的資料、闘病の記録は、利用者が多いので積極的に収集する。

エ 治療方法等の最新の状況についてわかり易く書かれた資料は、積極的に収集する。

5類 技術（工学、工業、家政学）

ただし、特に高度で、専門的な工学書は、利用者の見込めるもののみとする。

（1）科学技術の分野は、進歩と変化が著しく、また、今後ますます需要が増えることが予想されるので、最近の動向に遅れないよう、情報に絶えず注意する。

（2）入門書、概説書、専門書の収集に重点を置くが、先端技術等の最新の技術に関するものについては、一般向けにわかり易く書かれた入門書、実用書の収集に留意する。
特に高度で、専門的な工学書は、利用の見込めるもののみとする。

（3）趣味、実用書、日常生活において役立つ資料は、幅広く積極的に収集する。

（4）技術と社会等の学際的テーマに留意する。

501 工業基礎学

ア エネルギー問題は、社会的関心を呼んでいることに留意する。

507 研究、指導、技術教育

ア 特許、発明関連は、実用書を中心に収集する。

イ 科学玩具、模型工学等の、趣味娯楽に役立つものは非常に人気があるため、類書に注意しつつ幅広く積極的に収集する。

ウ 工業英語は、実用的な資料を収集する。

509 工業、工業経済

ア 市内中小事業者のための経営振興のための資料は、幅広く、積極的に収集する。

517 河川

ア 河川をきれいにする市民運動も盛んであり、河川の汚濁等に関する資料は、積極的に収集する。

518 都市計画

ア 本市の都市政策との関連で、積極的に収集する。

518、519 ゴミ問題、公害、環境問題

ア ゴミ問題、公害、環境問題は、本市の重要なテーマでもあり、また、現代社会の普遍的テーマでもあり、市民にとって大きな関心事であるので、多様な観点の多様な資料を幅広く積極的に収集する。

5 2 6 商店建築

ア 商店街振興との関連で、商店主のための実用的資料を幅広く収集する。

5 2 7 住宅建築

ア 5 9 7とも関連するが、住宅建築は、日常生活上の具体的な問題に対応する資料として利用が多いので、新築、改築にも役立つようなインテリアや間取りについての新しい実用的資料を中心に、幅広く収集する。

5 3 7 自動車工学

ア 利用が多いので、趣味や実用に役立つ資料を幅広く収集する。

5 3 8 航空・宇宙工学

ア 航空ファンのための資料に留意する。

イ 宇宙工学関連は、時事性、話題性のあるものを中心に幅広く収集する。

5 3 9、5 4 3 原子力発電、原子力産業、原子力行政

ア 環境問題との関連に留意する。

イ 現代のエネルギーの転換期において、様々な意見が対立する分野であり、市民の関心も高いので、多様な観点に立つ多様な資料を幅広く収集する。

5 4 6 電気機関車 5 3 6 鉄道車両（運輸工学）

ア 大人、児童ともに絶大な人気がある。特に、写真、図版の多い資料は、利用が多くかつ、破損しやすいので、新しい資料を積極的に収集し、補充することに留意する。

5 4 7 通信工学、電気通信

ア 無線、オーディオ等利用が多い分野であり、趣味や実用に役立つ資料を幅広く収集する。

5 4 8 ロボット、コンピュータ、情報工学

ア 利用が多く、また、進歩も著し分野であることから、一般向けの資料を中心にして、幅広く収集する。

イ 情報の更新に注意し、最新の資料に収集に努める。

5 4 9 電気工学

ア 情報の更新に注意し、最新の資料に収集に努める。

5 5 0 船舶

ア 船舶ファンのための資料に留意する。

5 5 9 兵器、核兵器、防衛産業

ア 利用が多く、また、様々な意見が対立する分野であるので、多様な観点に立つ資料を幅広く収集する。

5 7 6 化粧品

- ア 日常生活等に役立つ信頼のおける実用的資料を幅広く収集する。
- 5 7 9 バイオテクノロジー
- ア 社会的関心を呼び、また、様々な意見が対立する分野であることから多様な観点に立つ資料を幅広く収集する。
- イ 情報の更新に注意し、最新の資料の収集に努める。
- ウ 時事性、話題性、学際性に留意する。
- 5 8 1 金属製品、5 8 2 家庭機器、5 8 3 木製品、5 8 4 皮革製品
- ア 日常生活、趣味等に役立つ実用的資料を中心に幅広く収集する。
- 5 8 8 食品工業
- ア 生活、嗜好、料理に役立つ実用的資料を中心にして幅広く収集する。
- 5 9 0～5 9 6 家政学、生活科学～食品、料理
- ア 非常に人気があり、利用の多い分野であるので、信頼のある実用書を類書に注意して幅広く収集する。
- イ ファッション、料理等は、流行、季節感があるので留意する。
- 5 9 2 家庭電気
- ア 日常生活に役立つ分かりやすく信頼のある実用書を中心に収集する。
- 5 9 3 5 9 4 衣服、裁縫、手芸
- ア 非常に人気がある分野であるため、信頼のある実用書を類書に注意して幅広く積極的に収集する。
- イ 流行に留意する。
- 5 9 5 美容
- ア 利用が多いので、日常生活に分かりやすく信頼のある実用書を幅広く収集する。
- イ 流行に留意する。
- 5 9 6 料理
- ア 利用が多いので、いろいろな国の料理を類書に注意しつつ幅広く積極的に収集する。
- イ 以下の主題は、特に利用が多いので留意する。
- ・日本料理 ・中国料理 ・西洋料理 ・エスニック料理
 - ・材料別料理法 ・家庭料理、おやつ ・お弁当
 - ・酒、コーヒー、喫茶、カクテル、飲料
- 5 9 7 インテリア、家具調度
- ア すまい、インテリアへの関心は高く、利用も多いので、新しい魅力ある資料を幅広く収集する。
- イ 住宅建築との関連、流行に留意する。
- 5 9 8 家庭医学
- ア 出産や家庭医学、家庭看護は、利用が多いので、信頼ある実用書を幅広く、積極的に収集する。

5 9 9 育児

- ア 核家族化の中で、育児を本にたよる若い母親は、確実に増えているので、信頼ある実用書を幅広く、積極的に収集する。
- イ 幼児教育との関連に留意する。

6 類 産業（工学、工業、家政学）

- （１）一般市民が各産業の概略を理解するのに役立つ入門書、概説書を中心に収集する。
- （２）趣味や実用に役立つ資料は、類書に注意して幅広く豊富に収集する。
- （３）ビジネスマン、商店主、中小企業者の実務に役立つ資料は、信頼のあるものを積極的に収集する。
- （４）産業社会の新しい動向について分かりやすく書かれた資料は、積極的に収集する。
- （５）地場産業に関する資料は、郷土資料に含めて収集する。特に、茶に関しては、積極的に収集する。
- （６）年鑑、便覧等の基本的資料については、発行年度毎に必要なもの、数年に一度更新すればよいもの等を考慮し、内容の更新に努める。

6 1 0、6 1 1 農業

- ア 各国の農業事情や歴史等、特色あるものを中央館に収集する。
- イ 農業問題、食料問題など社会的関心を呼んでいるものは、積極的に収集する。
- ウ 遺伝子組換え、栽培工場等学際的なものに留意する。

6 2 0～6 2 8 園芸～園芸利用

- ア 利用の多い園芸を中心に趣味、実用に役立つ資料を中心に収集する。
- イ 実用書は、定評のあるものを厳選して収集する。また、類書に注意する。
- ウ 家庭園芸をする人が増加していることから、多様な種類の栽培法の資料もとりそろえ、身近な図書館として期待に応えるようにする。さらに、詳細な知識も得られるような専門書も収集する。

6 2 9 造園

- ア 家庭においてガーデニングをする人が増加していることから、趣味、実用に役立つ資料を幅広く収集する。
- イ 実用書は、定評のあるものを厳選して収集する。また、類書に注意する。

6 3 0 養蚕業

- ア かつて、本市の主産業であったことを考慮して歴史的著作等の収集に努める。

6 4 0 畜産業

- ア 出版数は多くないが、輸入牛肉等のさまざまな問題が生じていることから、時事性話題性に留意する。

6 4 5～6 4 9（6 6 6も含む。）家畜各論～獣医学、水産増殖

- ア ペットの飼い方、病気の治し方、家畜の飼い方は、趣味や実用に役立ち、子供から大

人まで利用するので、分かりやすく、かつ、信頼できるものを注意して収集する。

イ 一般的でない動物や、個々の種類毎（例えば、犬でもいろんな種類）の資料も収集する。

6 5 4 6 5 9 6 6 3 森林保護・鳥獣保護・水産保護

ア 環境や生態に視点を置いたテーマを中心にして収集する。茸、山菜等にも留意する。

イ 時事性、話題性のある資料は積極的に収集する。

6 7 0～6 7 5 商業英語・商業経営、広告、マーケティング、貿易

ア 商業者、サラリーマン等の実務に役立つ信頼のある資料を中心に幅広く収集する。

イ 貿易、契約、企画、先物取引等の実務に関する資料に留意する。

ウ 移り変わりが激しいので、注意して収集する。

エ 時事性、話題性のある資料に留意する。

6 8 1 交通政策、交通事故

ア 交通政策は、自治体問題との関連で収集する。

イ 交通事故は、信頼ある実用的な資料を収集する。

6 8 6 6 9 3 鉄道・切手

ア 鉄道ファン、切手ファンのために趣味に役立つ資料を類書に注意して幅広く収集する。

6 8 9 観光

ア 利用が多いので、実用的な資料を幅広く、積極的に収集する。

イ 最新の資料に留意する。

6 9 0～6 9 9 通信事業～放送事業 テレビ、ラジオ

ア 先端技術等やその応用について分かりやすく書かれた資料に留意する。

7類 芸術、スポーツ、娯楽

- (1) 市民の教養・趣味・娯楽に役立つ資料を、鑑賞・研究と制作・実技などとの両面にわたり、幅広く収集する。
- (2) 一般の市民が趣味として芸術を楽しむ際に参考となる資料については、入門的なレベルから上級のレベルのものまで幅広く収集する。
- (3) 手作りのための資料は、分かりやすいものを中心に高度な技術のものまで豊富に収集する。
- (4) 美術全集、画集、写真集などは、類書を考慮し、収録作品、解説、年譜等の充実したものを収集する。
- (5) 美術館、博物館の展示図録・目録は、市販資料にはない情報が盛り込まれているので収集に努める。
- (6) スポーツについては、各種目にわたって入門的なレベルから上級レベルのものまで数多く収集する。また、新しいスポーツについても積極的に収集する。

(7) 市民の趣向・流行に留意し、新しい分野についての情報も迅速に提供できるように留意する。また、利用の集中する部分には、十分な量の資料を用意する。

7 0 1 芸術理論・美学

- ア 基本的な資料を収集する。
- イ 新しく展開される理論についても留意する。

7 0 2 芸術史・美術史

- ア 関心の高い特定の（地域、時代、対象）分野だけでなく、情報を広範囲に入手し、新たな主題のものについても収集する。

7 0 3 美術品目録

- ア 各種の美術品の目録は、資料としての利用価値があるので収集する。

7 0 4 美術評論

- ア 時代を代表する評論、話題になった評論は積極的に収集する。

7 1 0 7 2 0 7 2 8 7 3 0 彫刻・絵画・書道・版画

- ア 作家研究や作品研究は基本的資料を収集する。
- イ 制作技法に関する資料は、体系的なものを中心に収集する。

7 4 0～ 写真

- ア 初心者向けの技術書からある程度の上級向け研究書まで収集する。
- イ 器械、材料、技術に関する分野は最新の情報が提供できるように留意する。
- ウ 著名な写真家のもの、特色あるテーマのものを中心に厳選して収集する。

7 4 9 印刷

- ア 基本的なもの、実用的なものを中心に収集する。

7 5 0～ 工芸

- ア 各分野の基本書を市民の趣向に留意して収集する。
- イ 趣味として手がける人のための技法書を中心に、幅広く収集する。
- ウ 各地域、各時代の特色ある工芸品に関する資料を中心に収集する。

7 6 0～ 音楽

- ア クラシックからポピュラー音楽、邦楽まで、各ジャンルの基本的なもの、概説書を中心に収集する。
- イ 楽譜集、楽器演奏教則本は、積極的には収集しない。（なお、児童資料を参照）
- ウ 音楽史、各国の音楽、音楽家、声楽に関する資料について留意する。

7 6 9 舞踏、バレエ

- ア 各ジャンルの基本的なもの、概説書を中心に収集する。

7 7 0～ 演劇

- ア 各ジャンルにおいて、基本的なもの、概説書を中心に収集する。
- イ 各国独自の演劇、大衆演芸に関する資料にも留意する。
- ウ 舞台芸術、舞台装置に関する資料にも留意する。

エ 時事性、話題性のある資料はなるべく収集する。

オ 学校や地域で上演される児童劇、人形劇は、児童資料として収集する。

773～ 古典芸能

ア 日本特有の芸能なので、基本的なもの、概説書を中心に体系的に収集する。

780～ スポーツ・体育、体操、遊戯～武道

ア 各種目、各競技ごとに基本書、概説書を中心に収集する。

イ ルールブックは、改正に注意して情報更新を図る。

ウ 技術書は、体系的なもの、新たなアプローチのあるものを収集する。

エ 市民の趣向、流行に留意し、新しいスポーツに関する資料も迅速に収集する。

オ スポーツ団体、学校、社会教育団体が指導や研究の上で役立つ資料に留意する。

カ スポーツ観戦の盛んな種目については「観る」側からの資料に留意する。

790 諸芸、娯楽

ア 各分野の基本的なもの、概説書を中心に体系的に収集する。

イ 市民の流行、趣向にあった資料を収集する。

ウ 社会教育団体に役立つ資料に留意する。

8類 言語

(1) 国際化が進み、市民の語学に対する関心も高いので、広く学習と実用に役立つ資料を収集する。

(2) 辞典類はこの分野の中心となる資料であるので、重点をおいて収集する。

(3) 各国語の語学書については、中国語、朝鮮語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語を中心に収集し、その他の言語についてもできるだけ収集する。

801 言語学

ア 言語学研究、ことばの研究についての基本的な資料を体系的に収集する。

809 話し方、会議法

ア 実用的な資料を幅広く収集する。

810 日本語

ア 日本語は利用が多いので、幅広く収集する。

イ 日本語の辞典類は主要なものを収集する。学習室等における貸出しの需要があるものについては複本を必要に応じて用意する。

ウ 特殊辞典、大活字時点も収集する。

816 あいさつ・スピーチ・手紙・論文

ア 文例集、式辞などは、実用に役立つ資料を鮮度に留意して収集する。

820～899 外国語・国際語

ア 各国の語学書は、もれのないように留意する。

イ 次の外国語については、○和辞典、和○辞典のほかに、その言語による国語辞典も収集する。辞典以外についても、基本的資料や一般的な軽易なものを積極的に収集する。

８４０ ドイツ語、８５０ フランス語、８６０ スペイン語、８７０ イタリア語

８８０ ロシア語

ウ 上記以外の言語については、○和辞典、和○辞典をはじめ基本的な資料を収集する。

○和辞典のない言語については、○英辞典などをできるだけ用意する。

エ アジアの諸言語、少数言語に関する辞典は、積極的に収集する。

８２９ 韓国語 ８２０ 中国語

ア 朝鮮語、中国語については、入門書、概説書を中心に収集する。

イ 未収集の言語、少数言語については、入門書、概説書を中心に収集する。

８３０ 英語

ア 英語については、概説書、専門書を中心に収集する。

イ 旅行、ビジネスに役立つ会話集など、実用的な資料も収集する。

８４０～８９０ ドイツ語等その他の欧米語

ア 入門書、概説書を中心に収集する。

９類 文学

(１) 市民の関心が高く、最も利用の多い分野なので、各ジャンルにわたって幅広く収集する。

(２) 入門書、概説書から、ある程度の研究書まで多様なレベルの要求に応じられるよう体系的に収集する。

(３) 古典的作品は、網羅的に収集する。代表的古典は、研究書、注釈書を収集し、重要なものについては、校本、複本も収集する。

(４) 現代の作品については、次のものを収集する。

ア 文学的評価の定まった作品

イ 文学批評の対象となった作品

ウ 各種受賞作品

エ 人物、社会事件等をテーマとした作品、話題になっている作品、映画化等のされる作品

オ 作品集としてまとまっているもの

カ 利用が多く見込まれる作品

９０１ 文学理論・作法

ア 文学批判、理論は、広く収集する。

イ 読み方、書き方の作法については、創作に役立つ資料を中心に収集する。

９０２ 文学史

ア 文学史は、主要な国別、形式別に収集する。

イ 概説的な文学史は厳選する。新たな視点、論点を特定できるものは、収集する。

ウ 日本の地方文学史、文学散歩、文学遺跡を収集する。

エ 文学者の伝記、評論、研究書は、類書に注意して広く収集する。

9□8 文学全集、選集

ア 世界・日本文学全集は、新収録、新訳出等新しい観点に立って編纂されたものを広く収集する。

イ 個人の文学全集は、旧版、他の版との違いを考慮の上広く収集する。選集・作品集は、主要なもの、評価の高いものを選択して収集する。

ウ 全集、作品集に入っている作品でも、利用が多く見込まれるものや、単行本、文庫本の形態の方が利用しやすいものについては、単行本、文庫本を複本として収集する。

909 児童文学

ア 利用も出版点数も多いので、十分な量の資料を用意する。

911 詩歌

ア 著名な作家の全集、作品集、現代作家の作品は、積極的に収集する。

イ 「俳句の作り方」のような入門書も積極的に収集する。

912 戯曲

ア 近代以降の作品は、評価の定まった作品を中心に幅広く収集する。

イ シナリオ文学に対しての関心も高いので主要な作家の作品を収集する。

913 小説・物語

ア 古典の解釈書については、評価の高いもの、新たな視点から研究したものを中心に幅広く収集する。

イ 著名な作家の全集、作品集は、積極的に収集する。

ウ 現代の小説は、最も利用が多い分野なので、幅広く、豊富に収集する。

エ 時事性、話題性のある作品に留意する。

914 評論・随筆

ア 小説と並んで、よく利用されるので現代のエッセイなど、幅広く収集する。

イ 時事性、話題性のある作品に留意する。

915 日記・書簡・紀行

ア 古典的作品から現代の紀行文まで幅広く収集する。

イ 時事性、話題性のある作品に留意する。

916 ルポルタージュ

ア 時事性、話題性のある作品に留意する。

920 外国の文学

ア 単行本、文庫本、作品集などを組み合わせて、古典作品から現代作品まで幅広く収集する。

イ 各分野の基本的な作品は、体系的に収集する。

- ウ 作品研究、作家研究については、未収集作家のものを中心に収集する。新たな視点論点のあるものは、収集する。
- エ 評価の定まった作家の小説は、全集等に未収録の作品を収集する。
- オ 英文学は利用が多いので、幅広く収集する。
- カ 出版点数の少ない国の文学作品についても留意する。

2 外国語資料

- (1) 外国語資料とは、出版地を問わず、外国語で記述された資料とする。
- (2) 中央図書館は、国際化に対応する図書館を目指して、国際交流都市狭山市の外国人に対して、図書館サービスを展開するためにも、多言語で書かれた資料を収集し、「外国語コーナー」として設置する。
- (3) 言語の種類
 - ・利用者の使用する言語にあわせた形での言語種類を考慮しながら、多くの種類の言語で書かれた資料の収集に努める。
 - ・英語資料を中心とした欧米資料のほかに、姉妹都市、友好都市の属する国の言語やその他必要と認める言語による資料を収集する。
- (4) 収集計画
 - ・市内に在住する外国人、帰国子女、語学学習者などを利用対象者として、各分野にわたって外国語資料を収集する
 - ・外国人のために「Books on Japan」、すなわち、広く日本を紹介した外国語資料、日本での生活情報などを幅広く収集する。
- (5) 外国語資料の形態
 - ・図書資料
 - ・新聞・雑誌
 - ・パンフレット、リーフレット、ミニコミ紙
 - ・AV資料

3 参考資料

参考資料は、図書館職員が参考質問に対する回答のため、また、利用者の調査、研究活動に提供するため、必要な情報を検索しやすいように一定の体系に配列し、別置しているものであり、百科事典辞書、辞典類、便覧、年鑑、地図、資料集、書誌、索引、抄録等がある。

これらは、内容が事実についての知識を与える正確な情報であり、また、記事の配列及び取扱い方は通読されるようになっていくのではなく、特定の情報記事が調べやすいようになっている。その形態は、冊子体のみでなく、データベースの形で機械検索できるように変化していくことが考えられる。

本図書館では、原則として電話帳を除いて、4階の郷土・参考資料室に一括・別置することとしている。

(1) 参考資料の種類

参考資料については、案内指示的な資料、事実解説的な資料がある。

ア 案内指示的な資料（書誌、目録、検索等）

この資料には、書誌、目録、検索等があり、それにより本や雑誌についての情報を知ることができる。

例えば

求める主題についてどんな案内があるか	→ 書誌ガイド
どんな本が出版されているか	→ 全国書誌、販売書誌
これは、どんな本なのか	→ 解題書誌
必要図書を購入できるのか	→ 販売書誌、選択書誌
この翻訳書はあるのか	→ 翻訳書誌
政府の出している資料は、どんなものがあるか	→ 政府刊行物書誌
求める主題についてどんな図書があるか	→ 主題書誌、人物書誌、 叢書・選書書誌、主題別 全国書誌・販売書誌
どんな全集・叢書に入っているか	→ 叢書集成索引
どんな雑誌が発行されているか	→ 逐次刊行物の書誌
この記事は、どの雑誌のいつの号にあるのか	→ 雑誌記事索引

イ 事実解説的なもの（辞典、事典、便覧、図鑑、年鑑、年表等）

この資料には、辞典、事典、便覧、図鑑、年鑑、年表等があり

(ア) 辞典類は、文字又は語を集めて、一定の順序に従って整理、配列し、その読み方、意義、語源、品詞名、表記法、用法、熟語等を整理したものであり、ことば、成句に関する情報を知ることができる。辞書、字書、字典、字引等ともいう。

例えば、次のとおりである。

文字の読み方・書き方は	→ 国語辞典、漢和辞典、難読語辞典、
言葉の意味は	→ 国語辞典
語源・字源は	→ 漢和辞典、語源辞典
ことわざ・成句の意味は	→ ことわざ辞典、名句辞典
符丁の意味は	→ 隠語辞典
ことばの発音は	→ 発音辞典
その他のことばは	→ 新語辞典、外来語辞典、同義語辞典、 類語辞典、方言辞典、古語辞典

(イ) 字典は、主題・事項の解説である点で辞典と異なる。事項を集めてその一つ一つにこれまで蓄積された情報を体系的に整理記述し、起源、由緒、来歴などを解説したものであり、百科事典、専門字典がある。

- ・百科事典は、事物・事象・事件・生物などあらゆる主題にわたって項目を選定し、解説した字典であり、どんな分野のことなのかを、どんな内容なのか、関係する分野は何なのかなど、調べる糸口や情報そのものになる。
- ・専門事典は、ある特定の分野に主題を限定して解説したもので、広範な主題のものから特殊な狭い主題のものまで各種の事典がある。特定の分野のことを詳しく調べたい時や、分野がわかっている、百科事典に収録されていない事柄などを調べる。

(ウ) 便覧は、特定の主題分野における簡単な事実や現況、統計データ、名簿、用語等の情報を記述したものであり、実用的な知識・技術を習得したり、参照するときに役立つ。実例、図解、諸表などを用いて要約的な解説をしていることが多いが、実際の書名では、事典と混同されることもある。同じ部類に要覧、総覧、必携ガイドブック、マニュアルなどがある。

(エ) 図鑑は、多くの写真や図版を集め説明を加えたもので、文書よりも図によって視覚に訴える方が、効果的に情報を伝えられる対象を扱っている。図録、図版、図説、図譜、写真集、図集と呼ばれるものも同じである。

(オ) 年鑑は、年間の主要な事件・外観・統計・資料・名簿などの内容で、通常年 1 回発行される。(白書・統計資料などを含む。)

百科事典年鑑 → 百科事典の補遺を兼ね、流動的な情報を求める場合に役立つ。

総合年鑑 → あらゆる分野にわたる情報を収録し、当該年間の諸問題の記録が概観できる。

地域年鑑 → 特定の地域内の総合年鑑的な性格をもつ。

統計年鑑 → 統計が主体の年鑑であるが、総合的なものと、専門分野を限るものがある。

専門主題年鑑 → 特定の主題分野に関する年間の主題事項が概観できる。

(カ) 年表は、歴史的な情報を年、月順に配列し、表形式に編集してあるもので一覧できる。一般的なものは、時代・地域の範囲によって分けられることがあり、専門的なものは、包括的なものから特殊専門的なものまで多様である。個人の伝記や団体沿革史などに付されるものは、年譜ということが多い。

(キ) 地名関係の参考資料

地図帳 → 一般地図のほか、歴史地図や特定の主題地図などを集めて冊子にしてある。(ここでは地図も含める。)

旅行案内書 → 旅行者向きに、特定の土地・建造物・名所旧跡・施設などの所在地、利用交通機関・習俗習慣・産業経済・行事などの情報が収録されている。

(ク) 人名関係の参考図書

人名事典 → 姓名・変名・読み・生没年・出生地・学歴・職歴・業績などが収録されている。一般人名事典のほかに、専門・職業によってつくられる専門人名事典がある。

名鑑 → 概して、現存者について、実録的で、画一的な形式により解説されている。機関等に所属する職員録も名鑑の一つである。

人物文献索引 → 人名からその人に関する文献を検索できる。

難読姓名辞典 → 常識的に読めない特殊な読み方の姓名を辞書風に編集してある。

系譜事典 → 人物・団体の系譜、諸芸の流派、学問の系統など、それぞれのつながりを図とその他によって系統的に示してある。

(2) 参考資料収集に係る一般的留意事項

ア 市民の調査研究に役立つ参考資料及び日常生活で必要とされる資料で参考資料として必要なものは、積極的に収集する。

イ 参考資料は、原則として貸出しを行わないが、必要なものについては、複本を用意して、一般図書として貸出しを行うものとする。

ウ 限られた図書館スペースと予算のため、データベースの形で安価に機械検索できるものについては、その方法をできるだけ取り入れるものとする。

エ 年鑑、事典、書誌、目録類等は、情報の更新について、発行年毎に更新が必要なもの、数年に一度更新が必要なもの等をかんがみて留意する。

オ 豪華本、特製本は、参考資料とする。

(3) 参考資料の種類毎の収集に係る留意事項

ア 書誌、目録、検索等

(ア) 本のことなら図書館で全てわかるぐらいに積極的に収集する。

(イ) 翻訳書誌は、最新版に留意する。

- (ウ) 市内類縁機関の蔵書目録は、積極的に収集する。
- (エ) 国立国会図書館、国内の公立図書館等の蔵書目録等、検索に当たってインターネット等が利用できるものについては、その検索体制を整える。

イ 辞典類

- (ア) 辞典類は、ことばだけでなく一般的な情報源ともなり、利用頻度も高く、参考資料の中でも重要な位置を占めている。従って、各種の辞典をできるだけ豊富に収集する。
- (イ) 小部のもので、貸出しが見込まれるものについては、貸出用としても収集する。特に、国語辞典、漢和辞典、英単語字典については、閲覧席、学習席での利用が見込まれるので、数多く収集する。

ウ 百科事典

- (ア) 百科事典は、項目の概念の大きいものや小さいもの、歴史的事項が記載されているもの、参考文献が記載されているものなど多様な種類を幅広く収集する。この場合、小部のもので、貸出しが見込まれるものについては、貸出用としても収集する。
- (イ) 030の分類の図書で購入したものは全て参考図書とする。ただし、ハンディーなもので貸し出しの多く見込まれるものは、貸出用としても収集する。
- (ウ) 日本の百科事典は、網羅的に収集する。
- (エ) 外国の百科事典は、代表的なものを収集する。
- (オ) 日本の県別百科事典は、網羅的に収集する。
- (カ) 参考資料とするほどのものではないが、貸出しが多く見込まれるものについては、貸出用として収集する。

エ 専門事典

- (ア) 専門事典は、参考資料として、どの主題ももれのないように収集する。この場合、小部のもので、貸出しが見込まれるものについては、貸出用としても収集する。
- (イ) 参考資料とするほどのものではないが、貸出しが多く見込まれるものについては、貸出用として収集する。

オ 便覧

- (ア) 内容は、入門的・啓蒙的なものから相当専門的な予備知識のいるものまで多様であるので、参考資料として幅広く、計画的に収集する。
- (イ) 手元において終始参照しやすいようにコンパクトにまとめたものが多いことから、貸出しが多く見込まれるものについては貸出用としても収集する。

カ 図鑑

- (ア) 植物や動物、美術の分野の各種の作品、歴史、考古学の遺物や資料、工学産業分野の機器・製品などのいろいろな分野の図鑑を幅広く参考資料として収集する。この場合、小部のもので、貸出しが見込まれるものについては、貸出用としても

収集する。

- (イ) 参考資料とするほどのものではないが、貸出しが多く見込まれるものについては、貸出用としても収集する。
- (ウ) 野外等で携帯して用いられることが多く見込まれるものについては、複本を多くする。

キ 年鑑

- (ア) どの主題も、できるだけ収集する。
- (イ) 総合年鑑は、代表的なものを収集する。
- (ウ) 埼玉年鑑は、郷土資料として収集する。

ク 年表

- (ア) ユニークな主題のものは、特に、積極的に収集する。

ケ 地図等

- (ア) 世界及び日本分県地図帳を収集する。逐刊のものは年度をおいて収集する。
- (イ) 都市地図帳は、県庁所在都市、政令指定都市、県内主要都市を収集する。
- (ウ) その他レファレンスに必要と考えられる国内、国外の地図帳を厳選して収集する。
- (エ) 住宅地図は、本市及び近隣市のものを収集する。
- (オ) 地図、市街図、観光地図は、全国主要都市、主要観光地のものを常置する。
- (カ) 道路地図は、基本的な全国版を常置する。
- (キ) 地形図は、国土地理院20万分の1図、5万分の1図を関東地方及びその周辺について収集する。
- (ク) 津南町等の特に必要にとされる地域の2万5千分の1図や地誌等に留意する。
- (ケ) 湖沼図は、必要に応じて収集する。

コ 人名事典等

- (ア) 非常に多くの利用があるので、幅広く積極的に収集する。

サ 行政資料等

- (ア) 調査、研究に必要な国の機構図、要覧類、白書、行政報告、調査報告書、審議会資料等の政府刊行物は、積極的に収集する。大学、研究機関の調査報告についても留意する。
- (イ) 埼玉県及び近隣自治体刊行物については、幅広く収集する。
- (ウ) 各県及び各自治体刊行物については、当面、参考資料として特に必要と認められるものを選択して収集する。
- (エ) 国、埼玉県、本市、近隣市の予算、決算書は毎年収集する。
- (オ) 各種社会調査、世論調査の報告、解説は、広く収集する。

シ 統計資料

- (ア) 国または埼玉県全体に及ぶ統計は、原則として全て収集する。
- (イ) 特殊な課題を扱っている統計は、必要に応じて収集する。

- (ウ) 世界及び主要国別の総合統計集は、網羅的に収集する。主題別の統計集は年度をおいて収集する。

ス 法令集、官報、判例

- (ア) 判例体系、現行日本法規等の加除式のものは、価格と利用率を総合的に判断して選択する。
- (イ) 今後、ニューメディアを用いた検索方法を積極的に取り入れるとともに、同検索方法へ変更していくことを検討するものとする。
- (ウ) 各種、届出、申請等の書式集に留意する。

セ 電話帳

- (ア) 全国すべての最新版を収集する。
- (イ) ニューメディアを用いた検索方法を積極的に取り入れるものとする。

ソ 新聞縮刷版

- (ア) 全国紙の代表的なもの及び埼玉県紙の縮刷版については、近隣図書館の収集状況をかんがみ、検討して収集する。
- (イ) 今後、ニューメディアを用いた検索方法を積極的に取り入れるとともに、同検索方法へ変更していくことを検討するものとする。

タ 資料集、専門的歴史関係資料

- (ア) 原則として一般図書として収集するが、参考資料的性格を持つ資料が多いので、幅広く収集する。

チ 全集

- (ア) 原則として、一般図書として収集する。
- (イ) 絶版となる全集は、欠版補充ができないので参考資料としても収集する。
- (ウ) 個人全集は、決定版的な全集を収集する。

ツ その他資料

- (ア) 学校の案内書、各種国家試験・資格の案内書は、年度をおいて収集する。
- (イ) 美術館、博物館等の案内書、展示目録は、市販資料にない情報が盛り込まれているので、収集に努める。
- (ウ) 大規模な美術館、博物館等の特異なテーマの美術館、博物館のカタログを収集する。
- (エ) 市内、近隣市の関係機関が発行する機関誌、パンフレットについては、できるだけ収集する。
- (オ) 障害者サークル・ボランティア団体の会報、情報なども身近な資料としてできるだけ収集する。

4 郷土資料

- (1) 従来からの呼び方を継承し、郷土資料と呼ぶが、その定義は、市民が地域生活を営む上の、調査、学習、教養等のあらゆる生活活動に資するため、「地域」につい

てのさまざまな事柄や郷土の歴史を後世に伝える多様な資料とする。

(2) 地域的範囲

狭山市を中心として、現在の行政区域における埼玉県全域及び必要に応じて歴史的経緯に見る関連区域も対象とする。

ただし、ある特定テーマについて、重点的に収集する必要がある場合は、地域的範囲に限定されないこともある。

(3) 郷土資料の種類

ア 狭山資料

狭山資料とは、主として次に掲げる資料であり、これらについては、積極的に収集するものとする。ただし、狭山市立博物館等の他の機関が持つ資料との調整を図るものとする。

(ア) 狭山市及び狭山市に関わる人を主題とした資料

(イ) 内容の一部が、狭山市及び狭山市に関わる人を取り上げている資料

(ウ) 直接狭山市という記述は出てこないが、地理、歴史、自然、産業など、内容が狭山市に関しているもの。

イ 埼玉資料

埼玉資料とは、主として次に掲げる資料であり、これらについては、積極的に収集するものとする。ただし、県立図書館、他の公立図書館や類縁機関が持つ資料との調整を図るものとする。

(ア) 埼玉県全般の動きや歴史、自然等について、外観し得る資料（県史、年鑑、概要、案内書等）

(イ) 特定の主題について、県全体の動きを総括的に扱っている資料

(ウ) 県内の個別自治体の動きや歴史、自然等について、概要し得る資料

(エ) 県内の個別自治体の特有の主題を扱っている資料で一般的なもの

ウ 地域行政資料

地域行政資料とは、狭山市、近隣市、埼玉県等が発行した資料である。

(ア) 狭山市が発行した行政資料については、網羅的に収集する。

(イ) 埼玉県が発行した資料で、行政や政策の動きが概観できる資料は、積極的に収集する。

(ウ) 近隣市の行政資料で、本市の行政運営の比較、参考をする上で必要と考えられるものについては、積極的に収集する。

(エ) 県内の自治体の発行する資料で、図書館の運営、自治体政策等についての参考となる資料については、積極的に収集する。

エ 市民文庫

(ア) 市民文庫の「市民」は、次のように定義する。

・狭山市出身の人

- ・ 狭山市在住の人
 - ・ 狭山市に在住歴のあった人
 - ・ 狭山市に在学歴のあった人
 - ・ 狭山市に滞在した人
 - ・ その他狭山市に強い関わりのあった人
- (イ) 市民が「著」、「訳」、「編」、「監修」等、何らかの形で著作内容に関わっている資料は、市民文庫として、積極的に収集する。
- (ウ) 狭山市出身の人、在住の人、在住歴のあった人の著作は、原則として全て収集する。ただし、著作に関する関与度が低い資料については、関与度に応じて段階的に収集する。
- (エ) 狭山市に在学歴のあった人、滞在した人、強い関わりのあった人については原則として主要著作を収集する。
- (オ) 利用の多い資料については、十分な複本を用意する。
- (カ) なお、市民文庫は、次のように運営する。
- ・ 市民の著作を後世に伝えるため、保存に十分留意する。
 - ・ 資料は、郷土参考資料室を原則とするが、必要がある場合は、副本を一般開架スペースに置く。
 - ・ 市民文庫については、情報の提供や寄贈に関して、市民の協力を仰いでいく。

第4 児童資料収集計画

1 資料収集基本的留意事項

- (1) 図書館は、すべての市民の知る自由を保障する機関であり、それは、子どもにとっても同様である。また、子どもの時代は、読書の喜びを発見し、自然の事物、社会等のあらゆる出来事に好奇心を持つ時期であるとともに、将来に向かって子どもの視野を広げさせ、その未知の可能性を引き出すことのできる大事な時期であり、かつ、その時期は非常に短い。

図書館は、この短い期間において、子どもたちが、古典的なものから現代社会を反映したものまで、あらゆる分野において、幼児、児童、生徒等成長のそれぞれの段階のあらゆる興味に対応できるように、適切な本と楽しみ出会えるように、環境を整備する必要がある。

- (2) 好奇心・探究心の旺盛な子どもの、今知りたいと思いが大切であることに留意し、子どもが何事かに関心を持った時が出会いのときと考え、適切な資料を提供できるよう日ごろから準備していく必要がある。
- (3) 子どもの読書は、楽しいものでなくてはならないことに留意する。そして、その楽しさが、子どもの知的情緒的な発達を促すのに大切な役割をはたすのである。そのため、図書館職員は、児童資料を芸術的・文学的な側面の外に多様な観点から評価し、選定・収集に生かせる能力を常に磨く必要がある。このことから、別に児童評価基準を定める。
- (4) その他、児童資料収集に係る基本的留意事項は、次のとおりとする。

ア 各分野評価が定まった資料（以下「基本図書」という。）は、もれなく、かつ、十分な複本をそろえて収集するように努める。

イ 国内、国外の児童図書賞を取得した資料で、出版されているものは、もれなく、収集すねように努める。この場合において、収集した資料は、基本図書とする。

ウ 基本図書は、日常的に維持・更新して、欠本の生じないようにするものとする。

エ 児童資料は、絶版となるまでの期間が短いので、品切れ、絶版となった基本図書の保存に努める。

オ 各分野の評価が定まらない資料にあっても、主なものは、できるだけ収集する。

カ 本市において、重点的に対応している行政施策に係る資料は、一般資料と同じく重点的に収集する。（環境問題、福祉施策等）

キ 図書館利用に障害のある子どもたちが利用しやすい資料に留意する。

ク 教科の課題や調べ物学習等ため、新しいデータの資料をそろえることに留意する。

ケ 調べ学習に必要な資料は、特に積極的に収集する。この場合において、貸出しのため、利用できないことのないように、禁帯本を必ず用意するように努める。

コ 利用が集中する分野は、十分な複本を揃えて収集するように努める。

サ 廃棄や書庫入れの際は、補充に注意し、必要なものが欠本とならないように充分注意する。

2 児童図書

(1) 絵本

絵本は、子どもが初めて手にする本であるとともに、赤ちゃんから大人まで幅広い層に親しまれるものである。児童資料としては、子どもの知的・情緒的経験を広げ、想像力を豊かに養うものを中心に、幅広く収集する、

ア 代表的なブックリスト等に掲げられた作品は、収集に努める。

イ 評価の定まった絵本作家の作品は、もれなく収集・保存することに努め、収集・保存した作品は、基本図書に含めるものとする。

ウ 海外の国の評価の定まった絵本作家の作品、評価の高い作品を中心に収集する。

なお、世界の国の絵本については、アジア、アフリカ、南アメリカの絵本を含めてそこに住む人々や社会に対する理解と認識を深めることに繋がることに留意していろいろな国の本がそろうように努力する。

エ 埼玉に関係する作家の作品は、漏れなく収集するように努める。

(2) 文学

豊かな想像力を養えるもの、子どもの視野を広げて、より高度な読書へ誘えるものを中心に幅広く収集する。

ア 代表的なブックリスト等に掲げられた作品は、収集に努める。

イ 評価の定まった作家の作品は、もれなく収集・保存することに努め、収集・保存した作品は、基本図書に含めるものとする。

ウ 子どもに人気のある作品は、十分な複本をそろえて収集する。

エ シリーズは、まとめて収集するのではなく、一冊ずつ検討して収集する。

オ 子ども向けに編集された日本と世界の古典は、各種体系的に収集する。その際、翻訳本に関しては、完訳・抄訳とも必要に応じて収集する。

カ 読み継がれている近代、現代の児童文学は、できるだけ幅広く収集する。

キ 現代児童文学については、日本と世界ともに幅広く収集する。特に、世界のものは、アジア、アフリカ、南アメリカの文学を含めて、そこに住む人々や社会に対する理解と認識を深めることに留意して収集する。

また、子どもに人気のある本は、欠かさないように注意する。

ク 埼玉の文学を総括的に扱っている資料は、出来る限り収集する。

ケ 埼玉に係る文学者の伝記、作家論は、必要なもののみ収集する。

コ 本市及び近隣市を中心として、埼玉に関わる作家の作品は、漏れなく収集するように努める。

(3) 昔話、神話、伝説

子どものよみものとしての、昔ばなしがもつ力、面白さ、不思議さ、美しさ、訴える力の強さ、与える喜びの深さを評価し、民俗学の一分野としてではなく、子どもの文学としての昔話を積極的に位置づけ収集する。

ア 各国・各地方の資料を幅広く収集する。

イ 昔話等を生んだ地域の特性、雰囲気が反映されているものを収集する。

ウ 本市及び近隣市に関する作品は、漏れなく収集するように努める。

(4) ノンフィクション

ア 科学への興味を呼び起こし科学的な考え方やものの見方を育て、将来へ向けて子どもの視野を広げる資料を収集する。

イ 子どもの発達段階に応じて理解しやすい内容で、表現方法にも工夫のあるものを収集する。

ウ 幼児から中学生までの知識、学習、趣味、娯楽に役立つ資料を収集する。

エ 必要に応じては、成人向けの資料も用意する。

(5) 漫画

ア 子ども向けの漫画で、古典に入るもの、各漫画賞を取得しているもの、名作傑作といわれるものについては、漏れなく収集するように努める。

イ 子ども向けの漫画で、別に定める評価基準を満たし、子どもが楽しめるものについては、読書へのステップストーンとして収集するように努める。

ウ 漫画は、過激化、俗悪化のものも多いので、収集にあたっては十分に評価を行なうものとする。

エ 学習漫画については、各々の分野の基準に準じて収集する。

オ 収集した漫画は、開架に置くように努める。

※ そのため、リクエストに基づく漫画の購入は行わないものとする。

(6) 児童図書の類目毎の基準

0類 総記

(ア) 一般資料の「総記」を準用する。この場合、子ども向けに書かれたものを対象とするが、必要に応じて、一般資料も収集する。

(イ) 子ども達の宿題や調べ学習に、いつでもこたえられるように、百科事典、専門事典を中心に、調査研究のための資料は、禁帯本を必ず用意するものとする。

(ウ) 子ども達にも読めるコンピュータ関連の資料を収集する。

1類 哲学（哲学・心理学・宗教）

(ア) 出版点数が少ないが、分かりやすい哲学、倫理、思想、宗教の資料を収集する。

(イ) 宗教については、その意義、現状、あり方を客観的に理解できる内容のものを収集する。

(ウ) 人生や生き方について悩んだり考えたりする子どもたちに著者の経験を通じて指針となる本を収集する。

(エ) 神話は、第4項の「昔話・神話・伝記」として収集する。

2類 歴史・伝記・地理

ア 2類一般

- (ア) 利用も多く出版点数も多いので、体系的に収集する。
- (イ) 社会科学習との関連に留意して資料を収集する。
- (ウ) 図版、写真、イラストを効果的に使った資料に留意する。

イ 日本史・世界史

- (ア) 各種年表、事典、地図などを収集する。
- (イ) 日本史・世界史ともに体系的に収集する。
- (ウ) 通史は、正確で信頼性のあるものを収集する。
- (エ) 歴史観の相違から記述に差があるので、異なる史観や多様な対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。
- (オ) 戦争については、科学的、実証的に書かれた本を積極的に収集する。
- (カ) 考古学、遺跡に関する本を収集する。
- (キ) 服装や住居などの生活文化の歴史は、利用が多いので図版のある資料を中心に収集する。

ウ 伝記

- (ア) より多くの人物に多様な観点からアプローチできるように幅広く収集する。
- (イ) 物語性を重視し、その行動・業績を通して被伝者の生活や生き方を伝えるものを収集する。
- (ウ) 時代背景や時間の流れが十分に理解できない幼児のための伝記は、偉人伝ではなく、事実を正確に伝えるものを選ぶよう、特に留意する。
- (エ) 埼玉県出身者についての伝記は、積極的に収集する。

エ 地理

- (ア) 日本国内の各地域及び世界各国の資料を体系的に収集する。その際最新の資料に留意する。
- (イ) 関東近県や埼玉県の資料は、積極的に収集する。
- (ウ) 修学旅行、社会科見学に役立つ資料も収集する。
- (エ) 地図は、冊子形態の資料を収集し、一枚ものは収集しない。
- (オ) 探索記は、利用が多いので幅広く収集する。
- (カ) 地場産業、伝統工芸については利用が多いので、関東近県や埼玉県を中止にして各地のものを幅広く収集する。

3 類 社会科学（政治・経済・教育・民族）

ア 社会科学一般

- (ア) 社会についての基礎的な知識が得られ、自分と社会との結びつきが考えられるような資料を収集する。
- (イ) 身近な社会の問題から世界的な問題を扱った資料まで幅広く収集する。
- (ウ) 社会の新しい動向について記述されている資料に留意する。
- (エ) 多様な対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く

く収集する。

(オ) 社会科学習に役立つ資料を収集する。

イ 民俗

(ア) 本市及び近隣市の年中行事・まつり・風俗習慣については、積極的に収集する。

(イ) 埼玉県内の年中行事・まつり・風俗習慣については、幅広く収集する。

4 類 自然科学（算数・理科・地学・医学）

ア 自然科学一般

(ア) 子どもが科学的知識だけではなく、科学的な物の見方、考え方を学ぶことができるような資料を体系的に収集する。

(イ) 子どもの旺盛な知識欲に応えられるように、多様なテーマの資料を収集する。

(ウ) 自然に対する興味を深め、子どもと自然とのふれあいの手引きとなるような資料を収集する。

(エ) 子どもの発達段階、理解力にあった内容のものを各種揃える。

(オ) 図鑑の生き物の飼育、植物の栽培に関するものは、多種類にわたって調べられるように各種のものを豊富にそろえておく。

(カ) 子どもが興味を持つ山野草、キノコ、昆虫、魚等の中には、触れたり、食べたりすると毒性の強いものもあるので、多様に調べられるように信頼のおけるものを各種のものをそろえておく。

(キ) 図版、写真を正確に、かつ、効果的に使い、これらで表現できない特徴や倍率等についても正確な説明があるものに留意する。

イ 地学

(ア) 天気、気象、岩石、生物については、正確さに留意して幅広く収集する。

ウ 医学

(ア) 人体の資料は、正確で新しく科学的な内容のものを収集する。

(イ) 体と栄養・病気・医療と暮らしに関しては、信頼がおけ、かつ、分かりやすく書かれているものを収集する。

(ウ) 性・誕生・身体的発達に関する資料は、科学的に正確で、人間の尊厳を守るように書いてある資料を収集する。

5 類 技術（工業・家政学）

ア 技術一般

(ア) 科学技術への理解を深め、想像や創作への興味を引き出す資料を収集する。

(イ) 最新のデータ・情報に基づいて書かれているものを収集する。

イ 公害、環境問題

(ア) 様々なレベルのものを幅広く収集する。

ウ 家政学

(ア) 手芸、料理などの資料は、子どもたちが心から楽しみ、遊べるような娯楽性・

実用性の高い資料を数多く収集する。

6 類 産業

ア 産業一般

- (ア) 特に社会科学習との関連が深いので、各種産業に関わる多様な資料を収集する。
- (イ) 情報化社会などの産業界の新しい動向に触れた資料に留意する。

イ 園芸、畜産業

- (ア) 草花の栽培、生き物の飼い方の資料は、子どもに人気があるもので、実用性の高いものを幅広く収集する。

7 類 芸術（芸術、スポーツ、娯楽）

ア 7 類一般

- (ア) 利用の多い分野であるので、各分野の基本となる資料を体系的に収集する。
- (イ) 子ども達の興味や流行に留意し、最新情報を提供できるように資料を収集する。
- (ウ) 図版、写真、イラストを効果的に使った資料に留意する。
- (エ) 子どもが心から楽しめる資料を用意する。

イ 美術

- (ア) 子どもの美的鑑賞が養われ、芸術に対する興味を深められる資料を収集する。
- (イ) 各分野の理論、歴史、作品集、技法等を体系的に収集する。

ウ 工作

- (ア) 昔のおもちゃのつくり方を含めて、幅広く収集する。
- (イ) さまざまなレベルの資料を用意する。

エ 音楽

- (ア) 各種の楽器についての資料、合唱の資料などは理論書、実用書を体系的に収集する。
- (イ) 童謡は、積極的に収集する。
- (ウ) 子ども向け楽譜集については収集に努める。

オ スポーツ

- (ア) 各種スポーツの歴史、ルール、練習法等を体系的に収集する。
- (イ) 子どもに人気のあるスポーツの資料は、十分に用意する。
- (ウ) 実用性の高い資料を十分に用意する。

カ 娯楽

- (ア) 子どもの流行に留意し、遊びに関する資料は、積極的に収集する。
- (イ) 子どもの成長にとって遊びが重要な役割をすることに鑑み、屋外・屋内を問わず昔の遊びに関する資料を十分に用意する。
- (ウ) 子ども向きの外国語入門書も用意する。

8 類 言語

- (ア) 国語の学習に役立つ資料は、種類を十分に備える。

(イ) 辞典は、数種類用意する。

(ウ) 子ども向きの外国語入門書も用意する。

9 類 文学

第2の2項のとおり

3 ヤングアダルト（児童書の階のため、児童書に含める。）

ヤングアダルト（児童から成人になる時期の人達・・・主に中学生、高校生など）は、現代の時代においては、生まれたときから、すでに物質文明の真っ只中にあり、テレビやコンピュータゲームなど、活字文化だけでなく、様々なメディアによる情報の洪水の中で育っている世代である。そのため、身体的には、すでに大人であるが精神的には子どもから大人へ変わる悩みが多く、精神的にも不安定の時期にあり価値観の氾濫の中で低俗な価値観の影響を受けやすい時期にもある。

これらの世代の人を「児童」ではなく、「若い大人」と尊重し、興味のある情報資料や人生を如何に生きるかなどに関して深みのある図書を用意して、図書館への親しみを持たせるとともに、音楽、映像、読書の豊かな世界を紹介し、安易に低俗な価値観に流されず、かつ精神的にも豊かな人生を送れるような価値観をもってもらうことが必要であることから、以下の事項に留意するものとする。

ア 一般資料の収集計画に留意しながら、分野にとらわれず、ヤングアダルトのための資料を幅広く収集する。

イ 中学生以上の十代の資料要求や理解力に即し、青少年が、読書を楽しみ、感性や知性の成長の糧となるような資料を幅広く収集する。

ウ 青少年を対象に出版された本、青少年の生活に結びつく本を収集する。

エ 進路、就職、学校など将来を考える参考となる本を収集する。

オ 文学は、青少年に薦める本と青少年が興味を持てる本の両面から収集する。

カ 青春の書として深い感銘を与え、読み継がれてきた本、あるいは、現在の若い人に支持されている本、大人や教師が若い人に薦めたい本等を収集して、豊かな読書の世界を紹介する。

キ 若い人たちの知性、感性にこたえられるすぐれた漫画を収集する。

ク 各種選定目録、各種メディアの批評で、中高生向きと表示されたものや、中高生向きと考えられるものを収集する。

ケ ヤングアダルトが主たる読者層となるような文庫や新書等については、各出版社の出版状況を見ながら収集する。

4 紙芝居

ア 内容、絵、文ともに評価が高く、演ずることにより大勢の子どもが同時に喜びを共有できるものや、子どもが演じたいようなものを幅広く収集する。

イ 優れた紙芝居については、十分な複本を用意する。

5 参考図書

- ア 各分野にわたり子どもの調べ学習や調査研究に役立つ資料は、貸出し用の資料があったとしても、禁帯出を参考資料として必ず用意するものとする。
- イ その他収集において、留意する事項は、一般資料の参考資料を準用する。
- ウ 利用が集中する参考図書については、複本や類書を十分に用意する。
- エ 一般資料の参考図書であっても、子どもの利用に適するものは積極的に収集する。

6 郷土資料

- ア 地理的収集範囲は、狭山市に関連するものを最優先とし、次いで埼玉県及び同県内の地域に関連するものとする。
- イ 子どもの調査研究に役立つことを念頭において、郷土資料を収集する。
- ウ 狭山市に関連する歴史、地理、宗教、民族、伝説、年中行事、自然、産業、芸能、方言等で子どもに分かりやすく書かれたものは漏れなく収集するように努める。
- エ 埼玉県及び同県内の地域に関連する歴史、地理、宗教、民族、伝説、年中行事、自然、作業、芸能、方言等で子どもに分かりやすく書かれたものは、幅広く収集する。
- オ 狭山市、近隣市に関係する作家の文芸作品で、子ども向けに書かれたものは、漏れなく収集するように努める。
- カ 利用が集中する主題や資料については、複本や類書を十分に用意する。
- キ 一般資料である郷土資料であっても、子どもの利用に適するものは積極的に収集する。

7 児童研究資料

- ア 子どもの本と読書に関する資料を収集する。
- イ 児童文学論、児童文学史、作品作家研究、各種リスト等は、積極的に収集する。
- ウ 地域文庫、子供会、教師、保育士等の児童文化活動に携わる人のために、児童文化全般の中から必要なものを収集する。
- エ 図書だけでなく、雑誌やパンフレット類も収集する。

第5 その他資料収集計画

1 逐次刊行物資料

新聞、年鑑、年報、雑誌は、定期、不定期に、完結の時期を予定することなく刊行される逐次刊行物の一つである。

このうち、新聞、雑誌は、速報性という利点があり、新しく開発された分野、未確立の分野、範囲の狭い専門分野、局地的な分野など図書になりにくい主題の情報が素早く得られる。従って、新聞、雑誌は、図書館資料の中でも利用者に最も新鮮な情報を提供するために不可欠な資料である。

また、データベース化されている検索システムをもちいることにより、政治、社会経済の動向、各自治体の行政改革状況、時代を反映する風俗状況など様々な情報を検索するた

めのレファレンス資料としても重要である。

このように、新聞、雑誌は、一般資料とは、性格が違うが同じように重要であり、現実の社会生活でも読書に占める新聞、雑誌の割合は高い。図書館が、多種多様な新聞、雑誌を豊富に収集し、又は、検索できるようにすることは、利用者の要求を満たし、図書館をより一層身近なものとする。

以上のことから、収集の基本となる計画を、次のとおりとする。

(1) 新聞

ア 主要な日刊紙を中心に各種新聞を幅広く収集する。

イ 以下のジャンルの新聞を収集の対象とする。

(ア) 全国的一般紙

(イ) 埼玉県・狭山市関係の郷土紙

(ウ) 専門・業界紙

(エ) スポーツ紙

(オ) 英字新聞・外国語新聞

(カ) 政党機関誌

(キ) 出版・読書関係紙

(ク) 官報・県報

ウ 民間の新聞データベースを利用できるインターネット利用システムを推進する。

(参考 各種新聞サイト、日経テレコン、朝日DNA等)

(2) 雑誌

ア ここでは一般的に図書、パンフレット類と、区別される雑誌の範囲においてその収集方針と保存の方針について述べる。

イ 図書館における雑誌

雑誌は、あらゆる分野における最新の動向を収録するという意味で、他の資料にはない、速報性を持つ。よって雑誌は、図書館資料の中でも利用者に最も新鮮な情報を提供するために不可欠な資料である。また、各分野での研究を支える記録の多くも雑誌を通して提供されるため、調査研究に役立つ資料としても収集を行う。

ウ 市民要求への対応

市民の多様な興味・関心に応じた収集を行うため、平常より様々な方法で市民の要求を把握し収集に役立てるように努める。

エ 収集の範囲

a 市民の暮らしを豊かにするような生活情報、趣味の雑誌など市民の趣向に合わせて生活に役立つ各分野のものを収集する。

b 市民の調査研究に役立つ各分野のものを収集する。学術雑誌のうち、高度な専門雑誌などは必要に応じて収集する。

c 政治、社会、経済、産業等トレンドの状況や流行に対応し、時代の流れを的確に

捉えて常に新しい情報提供のできるものを収集する。

なお、オピニオンの総合誌については、個々の雑誌の独自性があるため、多種の観点から収集を行うものとする。

- d 正確な情報、的確な表現であるかどうかに留意し、データ、統計資料についてはなるべく新鮮な数値を提供するように留意する。
- e 以上の各分野の基本的な雑誌を幅広く収集する。
- f 時代の流れ、要求の変化に沿って新規購入、タイトル変更を検討する。
- g ミニコミ誌などの形態でも利用が多く見込まれるものは収集する。

オ 収集の特色

- a 以下の分野のものは重点的に収集する。
 - ・狭山市と密接な関係にある雑誌（ミニコミ誌なども含める）
 - ・障害者向け雑誌資料
 - ・レファレンスコレクションとして有用な雑誌
- b 購読者の多い雑誌でも、公立図書館としての品位に関わると判断されるものについては、選定順位を下げるものとする。（露骨なヌード、セックス記事等のもの、品位の低い袋綴記事）
- c 収集している雑誌でも、公立図書館としての品位に関わると判断されるものが掲載されることがあるときは、その時点で選定順位を下げ、収集を停止するものとする。そのため、図書館職員は、既に、購入している雑誌についても、購入の際、内容について一通りの注意を注がなければならない。

2 視聴覚資料

AV資料については、メディア（媒体）もコンパクトディスク、ビデオを始めとして、時代と共に多様化してきており、その進化速度も早いので、時の流れを見極めつつ媒体を選ぶとともに、市民の教養、生涯学習活動に係る要求の範囲において優れたAV資料を収集するものとする。

（1）音響資料

ア クラシック音楽

- ・年代を追って各時代の作曲家の作品を幅広く収集する。
管弦楽曲、交響曲、協奏曲、独奏曲、室内音楽、声楽曲、オペラ楽曲、世俗声楽曲、宗教的声楽曲、現代音楽、その他

イ ポピュラー音楽

- ・時代の変化に富み利用が多いので、評価が高いアーティストの作品を幅広く収集する。
ジャズ、フュージョン、ソウル、ロック、シャンソン、インストゥルメンタル映画音楽、ミュージカル、ラテン、アメリカ音楽、カントリー、日本のポピュラー、その他

ウ 邦楽

- ・日本古来の音楽として伝統を伝える貴重な作品なので幅広く収集する。

雅楽、能楽、狂言、詩吟、民謡、その他

エ 諸芸・演劇

- ・日本の大衆文化の独自の存在として広く親しまれているので、幅広く収集する。

落語、漫談、歌舞伎、新劇、浪曲、その他

オ 自然音・効果音

- ・利用が多く見込まれるので幅広く収集する。

カ 子ども向け音楽・童謡

- ・利用が多く見込まれる幅広く収集する。

キ 朗読資料

- ・障害者を含めて幅広く利用が見込まれるので積極的に収集する。

ク その他

(2) 映像資料

ア 映画、動画

- ・内外の主要作品、評価作品を中心に収集する。

イ 音楽

- ・内外のクラシックやポピュラーの優れた作品を積極的に収集する。

ウ 教養

- ・記録、文化、科学、美術などのジャンルの中から優れた作品を収集する。

エ スポーツ、体育

- ・各種スポーツの解説や競技記録などを収集する。

オ 諸芸

- ・落語、歌舞伎などの古典芸能の主要作品を収集する。

カ 郷土に関する作品

- ・狭山市に関する作品を収集する。

キ その他

3 障害者用資料

公共図書館は、地域の住民の誰もが、いつでも必要とする資料を入手し、利用できるようにしていかなければならない。そのための方法は、図書館障害者サービス計画で定めるところであり、ここでは、資料の収集について述べる。

(1) 点字図書、録音図書、拡大図書

- ア 視覚障害者が即利用できる図書資料であるため、積極的に収集する。

- イ 購入又は借り入れのできないものについて、要求があったときは、出来るだけ制作も行うものとする。

(2) 大活字本

- ア 高齢者、弱視者に利用が多いので、積極的に収集する。

(3) 字幕、手話入りビデオ

ア 著作権の問題もあり、まだ販売点数も少ないので、出来るだけ収集する。

(4) さわる絵本、布の絵本

ア 障害児のみならず誰でも楽しむことのできる資料であるため、出来るだけ収集する。

4 パンフレット類

ア 市内及び近隣の関係機関が製作している機関紙・パンフレットについては、できるだけ収集する。

イ 主要な図書館、美術館、博物館等の案内書、蔵書目録、展示目録は、市販資料にない情報が盛り込まれているので、収集に努める。

ウ 大規模な美術館、博物館等の特異なテーマの美術館、博物館のカタログを収集する。

エ 市内、近隣市の関係機関が発行する機関紙、パンフレットについては、できるだけ収集する。

オ 障害者関係サークル・ボランティア団体の会報、情報なども身近な資料としてできるだけ収集する。